

内部評価指摘事項への対応方針(案)(浪速区)

【様式5】

番号	自己評価 様式5 (24年度)	運営方針(25年度)	指摘事項		対応方針  (26年度運営方針(案)に反映されている場合は、その 反映状況についても記載してください。)	対応方針 の分類 (※参照)
	課題—戦略 —取組	課題—戦略 —取組	主旨	内容		
1	1-2	2-1	戦略のめざす 成果に対する 有効性につ いて	アウトカムの設定について、25年度運営方針では、まちの賑わいづくりという課題に対し、全国主要都市等での区の認知度を設定していますが、賑わいづくりとどのような相関関係があるのか不明です。26年度運営方針の策定にあたっては、例えば来訪者やインバウンドに対する指標の設定などを検討してください。	交通至便であり集客施設が集中することなど、区の特徴(優位性)を広く周知して、その認知度を高めることは、他都市や企業等がPR活動の場として浪速区を選ぶきっかけづくりに繋がる。 また認知度が主要都市等で向上することは、PRだけでなく将来的には当区への拠点整備(企業誘致等)にもつながる可能性があり、まちの賑わいづくりに寄与することになる。 来訪者やインバウンド指標については、25年度に実施する来訪者調査の結果を踏まえ、設定に向けて検討する。	②
				戦略の進捗状況欄では、戦略に記載している来訪者の増加や来訪者の満足度の向上に向けた環境整備についても、それぞれ想定していたように進んでいるのかを記載する必要があります。	新世界や天王寺動物園周辺の環境改善については、建設局が所管しており若干の遅れがあるものの着実に整備が進められている。	①
				戦略欄に「浪速区がもつ観光資源や魅力を最大限に活用し、～まちの賑わいを創造する」と記載されていますが、特に「魅力」や「まちの賑わい」は具体的にどのような状態を示すのかを整理する必要があります。26年度運営方針の策定にあたっては、まちの魅力向上と賑わいづくりに向けて、どのような状態をめざすのか整理し、例えば数年後を見据えて、まちの魅力向上のために、環境整備やイベント誘致をどうするのか、賑わいづくりのために、どのようなイベントにより来訪者数の増加をめざすのかなど、アウトカムの実現に向けた戦略の構築を検討してください。	「人・物・資金」が集まる場所に「賑わい」が生まれ、その賑わいが都市(地域)の様々なイメージをつくり、それが複合的な情報となって伝わり「魅力」を形成する。 これらは行政の限られた環境整備やイベント事業だけでは実現しないものであり、当区では「なにわの日」「百年祭」「イベント得区」事業などを継続し、企業や地域住民等の横のつながり形成を支援することにより、周遊性や魅力を高めて来訪者数の増加をめざす。	②
				戦略の有効性評価については、戦略に掲げた情報発信や環境整備の取組等の結果が、「まちの活力向上に向けた取組みの認知度」の向上等のめざす成果の達成に有効かどうかを記載する必要があります。	SNS(ツイッター・フェイスブック)等を積極的に活用して情報発信することで、知名度や認知度の向上につながっていることから、めざす成果の達成に有効である。	②
				【1-2-2 浪速区魅力発信プロジェクト事業】では、「大阪なにわ魅力情報サイト」独自の企画(コンテンツ)の制作が年4回という業績目標に対して、どのような実績だったのか不明です。【1-2-5 新世界&天王寺動物園周辺の環境整備】では、「案内表示の充実」「歩行者道路やスロープ改善」などの個々の環境整備メニューについて、どのような実績があったのか不明です。	浪速区魅力発信プロジェクト事業については、サイトアクセス数を検証し課題解消に向け、事業掲載を一時的に中断し関係団体・企業等で協議し方向性を決定する予定である。 新世界&天王寺動物園周辺の環境整備については、「案内表示の充実」に関して24年度に整備されたが、「歩行者道路やスロープ改善」ほか個々の項目は、26年度に向けて関係局間により整備・検討中であるため、引き続き連絡会を開催しながら調整を進める。	⑤②

※ 対応方針の分類 ①：当年度において対応 ②：26年度運営方針に反映または26年度に対応予定 ③：26年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④：対応困難または対応不可 ⑤：その他

内部評価指摘事項への対応方針(案)(浪速区)

【様式5】

番号	自己評価 様式5 (24年度)	運営方針(25年度)	指 摘 事 項		対 応 方 針  (26年度運営方針(案)に反映されている場合は、その 反映状況についても記載してください。)	対応方針 の分類 (※参照)
	課題—戦略 —取組	課題—戦略 —取組	主旨	内 容		
2	2-5	1-5	現状分析や現状認識の記述内容について	戦略の進捗状況欄では、戦略に掲げた「区役所の危機管理機能の拡充」についても、想定していたように進んでいるのかを記載する必要があります。	区において策定した職員の災害時初期初動マニュアルに基き、地域住民が主体となって実施する避難所開設訓練に参加するとともに、危機管理室等と連携し災害時の本部体制の機能をシミュレーションするロールプレイング研修を引き続き実施する。	①②
				戦略の有効性評価については、戦略に掲げた「日常的な災害対策」等の取組の結果が、「避難所開設運営訓練」等のめざす成果の達成に有効かどうか記載する必要があります。	日常的な地域活動の中で育まれた関係(絆)が災害時において有効であることから避難所開設運営訓練におけるワークショップや訓練の中で、自らが事前に備えることや地域でのつながりの重要性を学び実行へつなげる。	①
				【2-5-1 区地域防災計画の策定】では、危機事象の整理に係る会議の実績が不明です。【2-5-8 災害時初動訓練の実施】では、初動訓練を実施したと記載されていますが、消防署の協力を得て、本格的なロールプレイング訓練の実施ができたかどうかの実績が不明です。	行政連絡調整会議等を活用し、危機事象に対する情報共有を実施する。 24年度の初動訓練については、市対策本部(危機管理室)と連携して区災害対策本部の設置訓練を実施。	②
				25年度運営方針において、経営課題欄に「自助・共助の仕組みづくりに区役所と地域住民が連携して取り組んでいくことが必要である。」と課題認識が記載されています。共助については避難所開設訓練等を中心に進めています。自助についてはどのように促進するのか方向性が不明確です。26年度運営方針の策定にあたっては、自助・共助のそれぞれについて、区の現状分析を行い、どのような状態をめざすのか整理してください。	区広報紙・ホームページ・防災マップを活用して、自助の重要性について啓発を図る。 また、世代間交流を図りながら地域住民と中学生の防災訓練を引き続き実施し、幅広い層へ自助・共助の重要性の認識を深める。	①②

※ 対応方針の分類 ①：当年度において対応 ②：26年度運営方針に反映または26年度に対応予定 ③：26年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④：対応困難または対応不可 ⑤：その他